

平成 23 年 1 2 月 1 2 日

東松島復興推進員だより(第4号)

～地を往きて走らず～

今回はガーナで青年海外協力隊としての活動を経て、復興まちづくり推進員として活躍している佐々木潤さんからのレポートをお届けします。

私は、2009年6月からガーナ北部にある郡役所の地域開発課で2年間、村落開発普及員として活動してきました。主な活動は、バイクで村落を巡回しながら、その村々での問題を話し合い、解決策を共に考えだすというものでした。例えばある村では、子供たちの学費や生活費とする収入向上のため、多くの女性達が仕事を求めています。そこで女性グループを組織化することにしました。彼女たちのニーズを踏まえ、職業訓練が必要だということで政府機関や支援団体と繋ぎをして訓練を実施しました。彼女たちは地域にあるシアの木から取れる天然油から、シアバターという化粧品を創りだすようになり、製品を販売するために、販路の開拓と繋ぎも行いました。いまでは、世界的企業であるボディーショップさんなどが買い付けてくれるようになっています。

また活動する村落での教師不足のため、定期的に小学校4、5、6年生に異文化教育のクラスを持って子供たちに授業を行いました。

東日本大震災の事実を子供たちに説明し、自分たちにできることがあるか投げかけたところ「自分たちの食料を送りたい」「今晚お祈りします」「手紙を書きたい」など貧しいながらも困っている人々を助けたいという強い気持ちをもっていました。そして子供たちと共に被災地を応援するメッセージを書いて日本とガーナの国旗を作成し石巻市立稲生中学校へ届けました。隣の東松島市で活動する中で、同行からの要請を受け出前講座に行き生徒たちにガーナでの体験を話したところ、アフリカや途上国が身近になった、今後の目標ができたなどの反応がありました。



ガーナから被災地へのメッセージ



ガーナの女性グループたちと

2011年6月に日本へ帰国し被災地のために何かをしたいと、宮城県で災害ボランティアとして活動し、被災地の現状を目の当たりにしました。ボランティアとして活動していた私に対して、厳しい状況にある被災者のかたから「うちのお風呂入ってけ」などたくさんの暖かい言葉を頂き、東北のみなさんの強さと優しさに触れることができました。

8月からは JICA の地域復興推進員として宮城県の東松島市に赴任し、今度はボランティアとしてではなく、住民と同じ目線で今後の復興まちづくりに参加させて頂けることとなりました。

私たち地域復興推進員は住民主体でまた住民の声を一番として活動しています。市が主催する地区懇談会ではファシリテーションとして住民の意見が出やすい雰囲気を作ったり、出された意見を取りまとめたりという支援を行いました。また、野蒜市民センターを活動拠点として、地域の皆さんと一緒に復興祭の企画から運営までをサポートしました。復興際には、これからの街づくりについてのアイデアを掲載できるボードを設置したところ、多くの声を集めることができました。

市民センターでの活動を通して、地域の皆さんの考えや意見を聴かせていただき、そのような声を実現できるよう、地域住民、宮城県、東松島市、NPO、各団体と協力しながら今後も復興まちづくりに務めていきます。

住民のニーズを支援者に繋いでいくことは私がガーナで学んできたことでもあり、国際協力の経験を地域の復興に活かしていきたいと思えます。



野蒜地区復興祭の様子



地区懇談会の様子

【復興まちづくり推進員ブログ】

<http://hmms0311fm.da-te.jp/>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
